



# にんな がっく 仁和学区



## 学区の概要

仁和学区は、最北部は今出川通、南は丸太町通の一部、東は千本通の一部、西は紙屋川までの広範囲におよびます。古代豪族「秦氏」の集住地域のひとつとされ、平安時代には平安京の中枢部に位置し、御前通以東では、宴の松原、内蔵寮、掃部寮、大歌寮、図書寮、大蔵省、兵庫寮、采女司、正親司、右近衛府、右兵衛府などが所在。大内裏外の右京域には官寮町が所在し、『拾芥抄』によれば兵庫町、右兵衛府、図書町、隼人町、采女町などの名が認められます。

天徳4年(960)に内裏炎上。その後しばしば火災に見まわれ、安貞元年(1227)の大火で内裏は再建されることなく、荒れるにまかされ衰退していきました。天正15年(1587)聚楽第が建設され、地域は大きく変貌。下の森通以東の地域は一番町から七番町にわたって組屋敷が形成され、城下の町々が出現しました。江戸時代、大將軍は東豎町をはじめ6カ町を形成。西ノ京も17カ町で独自の組町を構成し、西の繁華街として定着していきました。

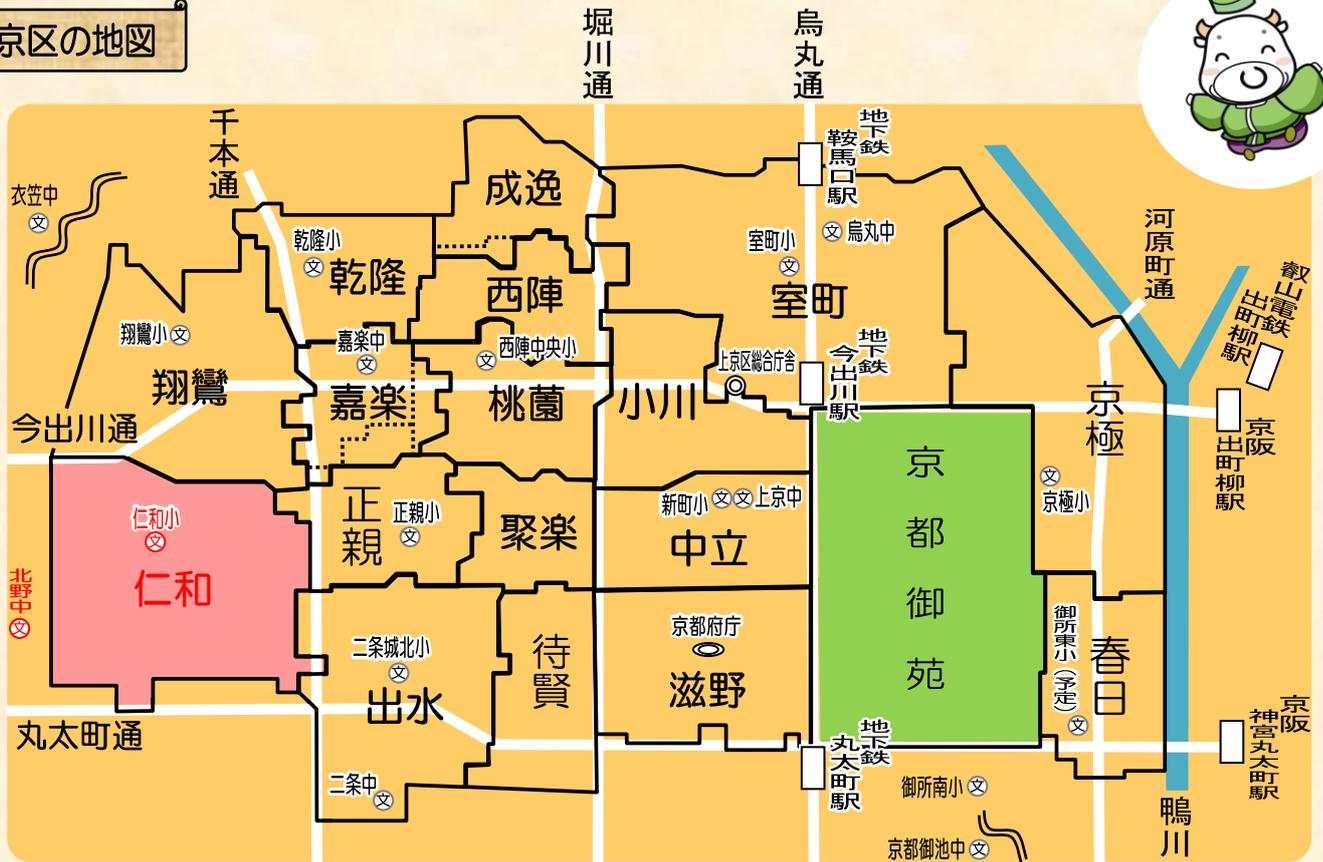
明治33年(1900)、京都電気鉄道が北野線(堀川中立売~北野天神)を開通し、後に堀川線を結び、北野から京都駅まで延長したこともあって、北野商店街周辺も「天神まいり」のお客で大変賑わいました。

仁和学区には約10,000人の人が住んでいます。しかし、少子・高齢化が進行し、65歳以上の高齢者が3,300人を超え、高齢化率が約34パーセントと京都市内でも特に高い地域となっています。

一方、小学校の生徒数は年々減少し、団塊の世代時に2,000人を超えた生徒数は、現在約370名となりました。それでも、旧市内で随一の広さを誇る校庭では、生徒が元気に走り回り、平成12年(2000年)に建て替えた校舎で勉学に励んでいます。

また、高齢者の増加と併せて、古い木造の建物や細街路、路地も多く大きな地震や火災等が起これば甚大な被害も想定されることから、現在、京都市行政の協力も得ながら、学区民が力を合わせて「災害に強いまちづくり」「安全・安心、住みよい仁和」を目指して奮闘しています。

## 上京区の地図



## 学区を代表する団体

仁和福祉団体連合会

## 学区の主な行事

- 総会（年2回）,
- ブロック幹事・正副部会長会議（月1回）,
- 敬老会,
- 仁和まつり（ミ二運動会含む）,
- 総合防災訓練,
- 祈願祭,
- 成人式,
- その他部会を中心とした行事多数

（発行）上京区役所 地域力推進室 まちづくり推進担当  
電話 441-5040